

諏訪地区教科用図書採択研究協議会並びに

諏訪地区教科用図書調査研究員会合同会議 次第

平成27年7月27日(月)

午後3時00分から

諏訪教育会館 会議室

1. 開会

2. 採択協議会長あいさつ

3. 校長会長あいさつ

4. 議事

(1) 平成28年度以降使用諏訪地区教科用図書採択の調査について

ア 事務局から教科書展示会の結果について

イ 調査研究員会から教科用図書の調査報告及び選定について

(2) 市町村教育委員会における採択報告及び情報公開について

(3) その他

5. 閉会

## 「諏訪地区教科用図書採択研究協議会並びに諏訪地区教科用図書調査研究員会合同会議」議事録

平成 27 年 7 月 27 日(月)午後 3 時～5 時 30 分

於:諏訪教育会館・会議室

### 1. 開会(諏訪市教育総務課長)

### 2. 採択協議会長あいさつ(諏訪市教育委員会 小島教育長)

本日はお集まりいただきありがとうございます。短い期間の中で、教科用図書の調査研究に携わってくださった研究員会の先生方、夏休み前の忙しい時期であり、また記録的な猛暑の中、報告書を提出していただきありがとうございました。特に本日ご出席をいただいた研究員長、副員長の先生方には、研究の方向付けやとりまとめ等大事な役割を果たしていただきました。改めて感謝申し上げます。大変な作業であったとは思いますが、先日の会でも申し上げましたように、採択に関わるこの研究は、同時に本格的な教科書研究、教科指導の研究の場でもありました。この研究に携わることで力量をつけ、その後の研究につなげていかれた多くの先生方がいるということを申し上げておきたいと思います。教科書は、子どもたちにとって学習の大変な教材であり、学びの発展や追究の道しるべであり、未来への扉であり、深くて広い知の世界へのジャンプ台でもあります。どんな教科書で何を学んだかは、大きく言えばその人の進路や、価値観の形成、生き方にもかかわってくる可能性をも持っています。各研究員会より報告された資料を基に、学習の主体者である子どもたちの立場に立って議論し、より適切な教科書を選択していきたいと思います。いずれもよくできた教科書ばかりですので、甲乙つけがたい議論になると思いますが、諏訪の子どもたちの期待に応えるために、協議会会員の皆様には忌憚のない積極的な質疑とご意見をお願いしたいと思います。どうかよろしくお願ひいたします。

### 3. 校長会長あいさつ(諏訪小中学校長会長 岡谷東部中学校 林校長)

本日はお集まりいただきありがとうございます。登山など様々な行事がある7月の短い期間のなかで、研究員の先生方には教科書を研究・報告いただいたことに感謝申し上げます。授業における教科書の役割は大変重要です。確かな力をつけること、考える力を身につけることが求められています。学校の外からの要請とともに、私たち諏訪の教育を進めてきた立場から、子どもたちの実態に即し、どういった教科書が適切なのか慎重に検討することが必要と考えています。本日は皆様の専門的知見と豊富なご経験をもとに、諏訪の子どもたちのために検討を進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

### 4. 議事(座長:小島協議会会長)

会長 : はじめに、議題(1)平成 28 年度以降使用諏訪地区教科用図書採択の調査についてのうち、ア 事務局から教科書展示会の結果について、事務局より説明願います。

事務局 : 教科書展示会は南信教育事務所により 6/19～7/8 の平日 14 日間、諏訪教育博物館で開催されました。来場者受付状況、アンケートの提出状況については添付のとおりです。なお、各教科の研究員長様には事前に配布させていただきました。

会長 : この件につき質疑はありますか。(質疑なし。)

それでは次に、イ 調査研究員から教科用図書の調査報告及び選定について、議事を進めます。各教科からの報告を受け、質疑、意見交換をしていきます。おおむね各教科 10 分くらいで考えておりますので、要点的にお願いします。研究結果報告の最初か最後に、研究員会としてはどの教科書が最も適切であると考えるか、根拠を含めて説明してください。それでは国語からお願いします。

研究員長： 国語と書写の教科書について報告します。適當と認められる教科書は、光村図書、三省堂、東京書籍です。（別紙調査研究報告書の所見の説明。※以下、各教科同じ。）研究員会としては、全体的なバランスが優れている光村図書が最も適切であると考えます。書写についても、国語の教科書と連携させて使うためにも、光村図書がよいと考えます。

会長： ご質問、ご意見はありますか。

協議会員： 私も光村図書に賛同します。どの教科書も写真や挿絵など洗練されたものを取り入れて見た目も明るく、興味関心を沸かせる配慮があり、また、学習の発展を意識して記号やマークを使い大事な部分がわかるように工夫されていました。その中にあって、光村図書は全体のバランスがよく、見通しを持って学習をすること、それぞれの分野でどんな学習をするのか、どんなふうに期待や見通しが持てるか、といった大事なところが配慮されていると思います。空白（余白）の使い方も適切で、子どもたちがその教材を読んでみようという気持ちを起こさせると思いました。

協議会員： 必要な内容のバランスがよく配列されているという総合所見の具体的な内容はどのようにですか。

研究員長： 初めに読み物があり、その次に話す・書く、その中に練習問題がある点など、単元全体の構成にバランス感覚を感じます。

協議会員： 教材としての読み物の内容としてはいかがですか。自然、歴史、国際関係、時代的なものなどいろいろあると思いますが。

研究員長： 1年から3年まで含めると、国際問題、東日本大震災、科学的な話題など、生徒の興味関心を引く内容が網羅されていると思います。

協議会員： バランスのよい配列以外で、他の教科書より特に優れている、適切と思われるところはどんなところでしょうか。

研究員長： 一目見たときの余白、活字がほかの教科書とは一味違うと思います。小中のつながりという点も意識されています。中学1年生の最初に「野原はうたう」という教材が用意されており、中学校での学習に素直に入っていく工夫がされています。

協議会員： 総合所見として、光村図書も東京書籍も生徒が主体的に学べるよう配慮されているという研究結果が報告され、三省堂は意欲を引き出す、という報告があります。それぞれの違いはどのようなところにあると捉えていますか。

研究員長： 三省堂はかなり細かいところまで詳しく書いてあり、そのことが授業構成の立てにくさにもなり得ると考えます。光村図書と東京書籍は授業者の裁量に任されており、生徒に応じた授業構成のしやすさがあります。

副研究員長： 東京書籍は、興味を引くという観点が強く、光村図書は、その教材をもって学習活動を

どのようにしていくかという観点が強いと思います。

協議会員：これからの中學を考へると、教師が思う方向へ引っ張るということでなく、主体的に学べるという観点が最も大事であると思います。

会長：国語と書写は、光村図書ということで判断してよろしいですか。（異議なし。）

次に、社会科お願いします。

研究員長：地理、歴史、公民、地図について研究をしました。地理について適當と認められる教科書は、東京書籍、教育出版、帝国書院です。（所見の説明。）3社を比べると、東京書籍はテーマ性が非常に明確に表れています。他社は各地域の特色について丁寧に学べるよう工夫されています。歴史について適當と認められる教科書は、東京書籍、帝国書院、日本文教出版です。（所見の説明。）公民について適當と認められる教科書は、東京書籍、教育出版、帝国書院です。（所見の説明。）地図は、帝国書院と東京書籍が適當と認められます。（所見の説明。）研究員会としましては、地理、歴史、公民ともに東京書籍が最も適切であると考えます。共通して、読んでわかりやすいこと、小中の連携が考慮されていること、問題解決的な学習、思考のテーマ学習を取り入れられている点がよいと思います。地図については、色彩が帝国書院は明確で、どの子にもはつきりと見ることができる工夫がされており、東京書籍は優しい色調です。立体的に捉えられる点で帝国書院がよいと考えます。

会長：ご質問、ご意見はありますか。

協議会員：東京書籍のテーマ性についてお聞きします。単に覚えたり、知識を詰め込むのではなく、興味関心をもって自ら学ぶという意味をもった学習のことだと思いますが、具体的にはどのような例がありますか。

研究員長：例えば地理における南アメリカ州のところで言いますと、多くの教科書では自然環境があつて、人々のこと、産業のこと、という構成になっていますが、東京書籍の場合は、自然環境と共生する持続可能な社会を作るにはどうしたらよいのか、というテーマに沿つて学習を進める設定がされています。テーマが明確になつていて、限られた時間で効率よく学ぶことができ、今日的な課題に迫ることができます。歴史と公民については、課題設定が明確になつていて、ばらばらと細かい知識の羅列ではなく、1時間1時間の中で見届けができる構成である点が優れています。

協議会員：例えば、歴史における武士の台頭・鎌倉幕府といった单元では、武士がどのように成長していくのか、という大きな問いを発して、そのテーマに沿つて一連の学習を深めていく構成になっているという理解でよろしいですか。

研究員長：はい。

協議会員：社会科は3分野あり、教科書会社も非常に多く、話題性もある教科です。東京書籍がよいと思う一番の理由はどこにありますか。地図だけは帝国書院である点もどうですか。

研究員長：東京書籍は、全体的にテーマ性において優れていること、わかりやすい表現があります。それから、社会科の学習指導要領の目標である、世界的な視野に立ち、多面的に考える力をつけること、これからの中學を生きる子どもたちが広い視野を持てることに注目しました。地図は、子どもたちによりわかりやすく、色覚的にも明確に伝わりや

すい表現に注目しました。

協議会員： 地理に関して、東京書籍は言語活動における表現力を段階的に高めるという工夫がされていると報告があり、教育出版では、自分なりの言葉での表現力を高めるとあります。具体的にはどのような違いになりますか。

研究員長： 東京書籍については、各時間の最後に書かせるところがありますが、南アメリカの例で言うと、アマゾン川流域、森林、草原での人々の生活にキャッチフレーズをつけよう、という項目があり、次の時間になると、あなたがそこに住む人だったとしたら、大規模な開発に賛成するか、反対するか、といった判断力を問う項目が出てきます。そういった段階を追った構成となっています。教育出版は、ステップ1で基礎的事実の確認、ステップ2で今までのまとめをする、とジャンプをさせながらやるという特色があります。

協議会員： 社会科では資料をどう見るかが大事だと思います。資料やグラフの示し方として、今はユニバーサルデザインという観点が重要です。帝国書院の地図についてもそういう視野から適切であると判断されたと思いますが、東京書籍の教科書はそういった工夫がありますか。

研究員長： 見やすく、わかりやすい配置や色になっていると思います。内容的にも、地理、歴史、公民ともに、ほしいと思うような資料がうまく配置されています。教科書だけで勝負ができるような構成になっており、資料集や地図は補足での活用ができるような、過不足なくかゆいところに手が届くような構成です。また、難しい部分の説明が端的で、どこを見ればその詳しい説明が出ているかも明示されています。

協議会員： 社会科は知識偏重になりがちと言われていますが、体験的な学習という観点では東京書籍の教科書は工夫されていますか。地理、歴史、公民と連動して自分の力にしていくような道筋になっているでしょうか。

研究員長： 小・中の連携に配慮されていて、特に歴史については、小学校の振り返りから入れるストーリー的な明確さがあります。歴史探検隊という項が6か所あり、地域を歩いたりして、自分の目で見て学んで行こうという観点は随所に取り入れられています。

会長： 地理、歴史、公民は東京書籍、地図は帝国書院でよろしいでしょうか。(異議なし。)  
次に、数学お願いします。

研究員長： 数学について適當と認められる教科書は、啓林館、東京書籍、学校図書です。(所見の説明。)研究員会としては啓林館が最も適切であると考えます。数学の場合は、他の教科と違って教材が変わってくるとか、学年で配置が変わるというようなことはありません。ほぼすべての教科書について同じような流れがあり、構成自体は大きな差は見られません。その中で啓林館の特徴について説明します。(以下、教科書を比較しながら説明。)1年生の方程式の単元では、啓林館では「方程式の解が問題にあっているかどうか調べて、答えを書く」という問い合わせがあります。数学においては、ともすれば方程式を立てて、計算して答えが出れば終わるということになってしまいますが、日常場面の中、一定の条件の中でどのように考えるかという観点がとても大事であり、啓林館では最初の導入の場面で位置づけられています。方程式の計算や利用において重要な「解の吟味」が丁寧に扱われるよう工夫され、また、題意を理解するために絵や線分図を載せ、

生徒がイメージしながら解決できるよう配慮されています。次に、2年生の図形の調べ方の単元では、二本の直線を動かして交わったところにできる4つの角度が変わっていくという、具体操作ができるような実例を写真で示し、変化の中には向かい合う角度は常に等しい、隣同士は  $180^\circ$  であるといった不变なものがあることを発見しやすいよう工夫されています。数学における定理、基本的な概念が形成される位置づけとなっています。また、小学校で学んだ平行線の書き方を示しており、知識・理解がスムーズに進むよう配慮されています。学ぶ意欲を喚起して課題解決に向かい、基礎的・基本的な力を定着させることができるように工夫されている点です。次に、3年生の二次方程式の単元では、平方根の意味に基づいて二次方程式を解くことを考えるところから始まって、最後の因数分解に至る手順となっています。他の教科書では最初に因数分解が出てきます。一般(解の公式)から特殊(因数分解)へと数学的な考え方方が深まる単元展開で、小中連携や学習内容の系統性を重視した単元の構成や配列がなされている例です。また、別冊「Math Navi ブック」が用意され、本冊の内容に関わる学び直しができるよう工夫されています。すべてに共通することをみんなで見つけようというところからスタートするところが、今回の教科書で啓林館が変わった特徴的なところです。啓林館は小学校5年の教科書でも、面積の単元で図形の基礎である三角形にわかるところから始めるという考えを持っており、他社は平行四辺形から始まっています。そういう哲学があります。また、3年生の円の性質の単元では、円周角の定理の逆というテーマについて、数学的な論理から入り、子どもの学習過程・思考過程に非常に忠実に構成されています。数学的な思考力・判断力・表現力が育まれるよう工夫されている点です。以上のような研究結果から啓林館が最も適切であると考えます。

会長：ご質問、ご意見はありますか。

協議会員：解を導くまでの思考の過程や、言語活動を通して理解し合う過程について、授業改革を求められている部分だと思いますが、思考過程を重視した授業構成という視点から見た教科書における工夫はどのようなところにありますか。

研究員長：2年生の一次関数の導入場面では、他社では鍾乳洞の長さの変化を題材に、ひとつの関係を一次関数とみなすという観点で導入されています。啓林館では単純に、からの水槽に水をいれていくという、生活のなかにある数字を取り出しており、“みなす”という難しい操作をしなくともよい導入の仕方になっています。単に興味関心を引くだけではなく、簡潔に生活の中に戻していく例です。

協議会員：啓林館は、全単元で前の単元からのつながりが記載されていると感じました。自分で考えられるような構成であると思います。

協議会員：研究報告から、数理面や系統性の強さを工夫していることがわかりました。数学はどうしても習熟の差が大きい教科です。ゆっくり学びたい生徒と、どんどん先に行きたい生徒がいて、どの生徒も数学を学ぶ喜びを感じることができなければなりませんが、啓林館はどんな工夫がありますか。

研究員長：単元導入時にそれ以前の学習内容とのつながりに関する配慮があります。また、別冊 Math Navi ブックには課題解決学習的な難しい課題が用意されています。一斉授業の

中で個別に配慮をしても限界がありますが、ひとつの課題について、グループ皆で学び合うことも大事にしつつ、先に終わった人は別冊でこれをやってみよう、というような対応もできます。他の教科書に比べた配慮されている点であると思います。

協議会員：子どもの学力差がつきやすい教科ですが、数学が苦手な子どもたちに対する配慮や工夫はどんなところにありますか。

研究員長：どの教科書もノート指導が強化されていますが、啓林館は特に、ノートに書く手順なども視覚的にわかりやすく示されています。

協議会長：数学は啓林館でよろしいでしょうか。(異議なし。)次に、理科お願いします。

研究員長：理科では自然の不思議さ、科学のおもしろさなどに触れ、日常生活に生かしていくという観点から研究し、啓林館、東京書籍、大日本図書の教科書が適当と認められました。(所見の説明。)研究員会としては、非常に悩むところでありましたが、生徒の科学への関心が高められることを考えると、総合的には東京書籍が最も適切であると考えます。

会長：ご質問、ご意見はありますか。

協議会員：理科では実験観察が軸になり、事象に出会ってどんな問題意識をもつかが重要だと思います。実験の目的意識が明確であると東京書籍を評価していますが、そのあたりをより具体的に教えてください。

研究員長：2年生の化学変化と原子分子の单元において、日本の化学コンビナートの写真が大きく載っており、そこで何が起こっているのか興味関心を引くようになっています。宇宙から見た地球の写真から身近なところに降りてきて、マクロからミクロに視点を移して物事を見ていくという工夫もされています。

協議会員：東京書籍は身近なところから問い合わせを発して、目的を明示し、わかりやすく丁寧な展開していくということを感じました。知的好奇心がわく構成であると思います。

協議会員：子どもが不思議さを感じるためには、自然現象の取り上げ方が重要だと思いますが、そういう部分の配慮はどうですか。

研究員長：火山の姿のところで、桜島から煙が上がっている様子を写真で示すなど、工夫していると思います。

会長：理科は東京書籍でよろしいでしょうか。(異議なし。)次に、音楽お願いします。

副研究員長：音楽の教科書は、教育出版と教育芸術社の2社のみで、いずれも適当と認められました。研究員会としては、音楽(一般)・器楽とともに教育芸術社が最も適切であると考えます。目標と内容をふまえて精選された教材によって、必要な内容が十分かつ無理なく構成されているからです。(所見の説明。)(以下、教科書を比較しながら説明。)目次に該当するページにも違いがあります。教育出版では、「音楽の要素をとらえながら」「さまざまな音楽文化」「歌い合わせ 聞き深める喜び」という3つのまとまりで構成されています。教育芸術社では、音楽学習 MAPとしてまとめられており、歌唱・創作・鑑賞を相互に関連付けながら見ることができます。また、「学習の窓口」として学習指導要領に示されている共通事項も合わせて表示されているので、学習する側としても、学習のポイントや関連性を意識しながら学ぶことができます。赤とんぼを歌う单元では、どちらの教科書も作者の思いや意図について記載してありますが、教育芸術社の方がより中学1・2

年生にわかりやすい言葉を選び、少ない音楽の時間でも理解しやすいよう工夫されています。表現目標についても、教育出版では「歌詞の内容や曲想を感じ取って歌おう。」と学習のポイントが示されており、教育芸術社では「日本の歌の美しさを味わおう」というページの中に「情景を思い浮かべながら、思いをこめて歌おう。」という表現目標が明示され、さらに、その表現目標に向けての具体的な活動として、「歌詞を朗読して、情景を思い浮かべながらそこにこめられた思いを感じ取りましょう。」「旋律のまとまりや強弱に気をつけて歌いましょう。」というようにわかりやすく示されています。他の教材についても同じ構成となっており、教育芸術社は、そこで何を手掛かりにして何を学ぶのか、わかりやすい構成になっています。次に、器楽分野です。(所見の説明。)

会長：ご質問、ご意見はありますか。

協議会員：決め手になる部分は、子どもたちをどこに向かわせようとしているかという方向性や視点の明確さですか。

研究員長：はい。それぞれの教科書に共通教材が入っていますので、それを要にしながら、関連教材も合わせて比較検討しました。ひとつの曲を扱うのに、どのように目標を持つかが大事になります。ただ歌わせるのではなくて、何をポイントとしてその楽曲に取り組むか、リズムなのか、言葉なのか、教師が教材を扱う時に明確であることが必要で、教育芸術社はわかりやすい構成になっています。

会長：鑑賞についてはどのような位置づけになっていますか。

研究員長：鑑賞については、教育出版もすばらしい写真が入っていてよい構成になっていますが、教育芸術社は音楽の3領域である歌唱・鑑賞・創作を関連させた音楽学習MAPに示されているように、鑑賞を関連教材として結び付けて大きなまとまりで音楽を捉えてまとめてます。

協議会員：器楽に関して、中学生に今現在持たせている楽器はリコーダーでしょうか。5種類の和楽器も教科書に出てきているようですが。

研究員長：小学校から持ち上げたソプラノリコーダーと、中学校からのアルトリコーダーが主流です。和楽器については、日本の伝統音楽に子どもたちが触れることが一番大事です。できれば楽器があればよいですが、諏訪では琴を中心に研修を深め、子どもたちが触れることができるよう取り組んでいます。

協議会員：生涯学習という視点から、豊かな情操を養うという点で音楽は極めて重要なと思います。教育芸術社の教科書は、先につなげていくという観点からは、どういったところが優れているでしょうか。

研究員長：中学1年生は年間45時間、2・3年生は35時間で音楽学習をしています。週1時間の授業でつながりをつくるのが困難な状況にあります。1時間の単位で「できた！」と感じられる授業をするために、教育出版社は幅広く多様な対応ができると思います。明確な目標をもって授業ができることが生徒にとっても教師にとっても望ましいことだと思います。

協議会員：いずれ中学生が巣立っても、生活の中に音楽があり、支えになるような学習であることが大事だと思います。将来につながるような音楽学習ができるポイントはありますか。

研究員長： 曲が持っている良さを感じることができないと、心に残る音楽にはなりません。じっくりとその曲に向き合い、その曲の良さをしつかり学べるという点で優れていると思います。生涯学習的な音楽にもつながるのではないかでしょうか。

会長： 音楽は、教育芸術社でよろしいでしょうか。（異議なし。）次に、美術お願ひします。

副研究員長： 美術では3種類の教科書を研究し、開隆堂、光村図書、日本文教出版とともに適当と認められました。（所見の説明。）（以下、教科書を比較しながら説明。）鑑賞に関わる具体例として、開隆堂では、「心ひかれる風景」として大きく掲載された絵画とともに、鑑賞活動のきっかけとなる問い合わせが示されています。光村図書では、絵の横に詩を掲載し、感じたことを話し合おうという欄を設けて生徒の対話・言語活動が活発に行われるよう配慮されています。日本文教出版では、「鑑賞との出会い」として、生徒が鑑賞している様子そのものを写真で紹介しながら、鑑賞の仕方、作品との対話による鑑賞の方法など、授業に結びつくような工夫がされています。これらの具体例に示されているように、3つの教科書それぞれの特徴・良さがありますが、日本文教出版は大きな図版で見やすく、生徒の目線を大事に編集されており、鑑賞の部分では、丁寧かつ段階的に、生徒が鑑賞を身近に感じることができるよう配慮されています。以上から総合的に勘案し、諒訪の子どもたちには日本文教出版が最もふさわしいと考えます。

会長： ご質問、ご意見はありますか。

協議会員： 今回、いろいろな教科書を拝見する中で、美術の教科書には鮮烈な印象を受けました。美術は、自分の感じたことを大事にしながら、自分らしく表現しそれを互いに認め合うということ、他者との人間関係、自己表現を学ぶ教科であると思います。自分が自分らしく表現し、表現することを喜びと感じるような学習という視点から、日本文教出版ならではの良さはありますか。

研究員長： 従来の美術では、どちらかというと作品の質の向上、完成度の高さが求められていました。参考作品も質の高い芸術家の作品や、生徒作品の中でも完成度の高いものが掲載される傾向がありましたが、今の教科書は、素朴なものから、完成度の高いところまで大変充実しており、それはどの教科書も共通しています。その中で、日本文教出版は小中連携に配慮していると思います。小学校では造形あそびとして、絵や工作など一体的に取り組んでいく教科書になっていますが、それが中学校に行くと、絵、彫塑と細かく分かれてしまいがちです。その点、小学校との連携を意識して、自分らしい表現の学びが中学校にもつながる配慮がなされていると思います。

会長： 美術は日本文教出版でよろしいでしょうか。（異議なし。）次に保健体育お願ひします。

研究員長： 保健体育では、学研教育みらい、大日本図書、大修館書店、東京書籍の教科書について研究し、適当と認められました。（所見の説明。）研究員会としては学研が最も適切であると考えます。

会長： ご質問、ご意見はありますか。

協議会員： 小学校の体育では東京書籍の教科書を使っていますが、そのあたりはどのように考えますか。

研究員長： 研究員会でも審議したところであります。扱われている内容自体はどの教科でも変わり

はありませんが、単元ごとの構成、レイアウトや図やイラスト、資料の使い方において、中学生には学研が最もふさわしいものではないかと考えました。

協議会員：科学的思考力を付けていくという観点で、学研の教科書が優れていると私も思いました。保健と体育のつながり、関連付けが子どもたちにとって理解しにくいので、このような教科書を使った発展性のある学習が必要だと思います。

協議会員：子どもたちの運動不足・体力不足が問題になっています。生活の中での運動の必要性などは学研の教科書では色濃く出ているのでしょうか。

研究員長：学研には特徴的な点がいくつか見られました。例えば、日常生活の中で、食事の問題、休養、睡眠と健康との関係が大事に扱われています。見開きの最初のページに、何を大事にしていかが強調されており、食事の取り方やタイムテーブルについて記載されています。2020年オリンピックに向けた話題が大きく掲載される教科書もあるなか、学研の特徴的なところです。有名メダリストやアスリートを中心に取り上げるのではなく、子どもたちの日常生活について、より大事にしています。オリンピックについては、学研では過去の幻のオリンピックのことや、東京オリンピックが日本社会にどのように影響を与えたか、といった視点で扱われています。

協議会員：学研はスポーツの多様性や効果、自分との関係性が丁寧にまとめられていると思いました。一つ心配なのは、保健体育の時間でこれだけのことが消化できるだろうか、という懸念です。体育科の研究課題であると思いますが。

研究員長：保健分野の35時間の中の体育分野で工夫が必要であると感じています。単元を始めるにあたって織り交ぜて扱っていくことが求められていると思います。教科書を持たせるだけでなく、今学ぼうとしていることの意味、スポーツをすることの価値など、教師自ら話しながら進める必要があります。

会長：保健体育は学研でよろしいでしょうか。(異議なし。)次に、技術家庭科お願いします。

研究員長：技術について報告します。東京書籍、教育図書、開隆堂を研究しました。いずれも適当と認められましたが、教育図書はまだ参入して日が浅いので、内容的には記述が不十分な点も感じられました。東京書籍と開隆堂は甲乙つけがたく非常に悩みましたが、具体的所見として記した点から東京書籍が最も適当であると判断しました。(所見の説明。)

副研究員長：家庭科について報告します。同じく、東京書籍、教育図書、開隆堂を研究した結果、最終的には東京書籍が最も適当と判断しました。(所見の説明。)東京書籍は唯一、巻頭資料に防災教育の視点を盛り込んでいます。自助・共助・公助という視点を入れ、自分自身だけでなく、家族、地域に目を向けていく作り方が、これから未来を担っていく子どもたちに最も重要な視点であると考えました。

研究員長：技術分野においても、東京書籍では巻末に防災手帳がとじこまれています。東日本大震災以降、防災に対する意識の高まりとともに技術家庭科においても防災教育が重要になってきている中、評価できる点であると考えます。

会長：ご質問、ご意見はありますか。

協議会員：諏訪地方にとってのものづくりの価値から言っても、東京書籍が技術の匠、伝統文化を

尊重する内容である点で、諫訪の子どもたちが学ぶにふさわしい教科書であると思います。男女共同参画という視点からは、技術科・家庭科それぞれに工夫や配慮が見られますか。

協議会員：ただいまの質問に関連して、目的を明確にし、計画し、製作し、修正改善して学習を深めていくというものづくりの学習における一連の流れや、安全配慮の観点においてはいかがでしょうか。

研究員長：技術分野に関しては、安全配慮はどの教科書も対応していますが、東京書籍においては導入部分で丁寧にイラストなどを使って考えさせる構成になっており、わかりやすいです。男女共同参画については、技術分野も家庭分野も生活をよりよく工夫していくということが共通した教科の目標であり、技術分野では社会生活に目を向けて男女の別なく、配慮され、まとめられている思います。

副研究員長：家庭分野では、家族、家庭生活と子どもの成長について、東京書籍では多くのページを割いて記載しています。子どもたちが保育園でのふれあい体験などを通して学んできたことをもとに学べ、自分と家族・地域とのつながりを考えていこうという視点でも充実した記載がされています。他の教科書と比較すると倍以上のページ数です。様々な家族形態がある中で、学習しやすい構成であると思います。

研究員長：ものづくりに関しては、ものを作りながら修正するという視点と、ものを作る設計段階の構想をいろいろな人の意見を聞きながら修正するという視点があります。これらの点についても東京書籍は充実しており、学習指導要領で大事にしている、工夫し創造する力を高めていく手立てになると考えます。

会長：技術家庭科はともに東京書籍でよろしいですか。(異議なし。)最後に、英語お願いします。

研究員長：文部科学省から出されている、グローバル化に対応したこれからの英語教育の目標として、中学校では4技能の総合的育成、特にコミュニケーション能力の基礎を養うということがうたわれています。三省堂、東京書籍、教育出版が諫訪の子どもたちの実態に合っていると考えられ、適当と認められました。(所見の説明。)読み物教材については、三省堂は非常に充実しています。中学生の発達段階に沿った、幅広く、深く、心に残る読み物が多いです。小笠原の自然保護、戦争に関して佐々木禎子さんの物語、マーティン・ルーサー・キングJrのI have a dreamなど、読み応えのあるものばかりで、おそらく子どもたちが中学校を卒業しても記憶の残る教材であると思います。スピーチングについては、過去形や関係代名詞の学習進度に沿った、各学年に合った題材が組まれているところもよいと思います。各単元の目標が明示されているので、Slow Learnersでも、スマールステップを振り返りながら段階的に学んでいけるようになっています。東京書籍は、非英語圏の国々の題材を広く扱っている点などがよいと思いますが、実際的なスピーチングとして量や題材に不十分さを感じます。また、三省堂で示されている会話例では、聞き返しなど自然な会話らしい会話になっているのですが、東京書籍では会話になっていない例もあります。教育出版は、B5版でコンパクトにまとまり、別冊が付いていますが、教科書を見たり別冊を見たりするのは使いにくい

可能性があります。また、レッスンの目標は書いてありますが単元の目標が不明確であるとも感じました。以上から、三省堂が最も適切であると考えます。

会長：ご質問、ご意見はありますか。

協議会員：コミュニケーション能力を向上させるための学習形態としてグループ学習がありますが、そこにつなげやすいような構成はされていますか。

研究員長：グループ活動はあまり多くはありませんが、ところどころでペア活動が含まれています。ペア活動でのコミュニケーションが主となっています。

協議会員：小学校での外国語活動が定着してきているなか、小中連携に配慮されている点は何かありますか。また、三省堂のUse-Read、Use-Write、Use-Speakは、コミュニケーション能力を伸ばすためにどのような利点がありますか。

研究員長：どの教科書についても、英語の扉のようなものが最初の数ページにあり、小学校の外国語活動で学んできたことの復習ができる構成になっています。後半のご質問については、会話をしたり、自己表現をしたり、対話文を作つてみるなど、様々なバリエーションで学習内容を活用できる構成になっていることによって、子どもたちに飽きが来ないような工夫だと思います。

協議会員：子どもたちが会話やディスカッションができるよう志向した授業を進めるうえで、三省堂が一步抜きんでているという理解でよろしいですか。

研究員長：はい。

会長：それでは、英語は三省堂でよろしいでしょうか。(異議なし。)全教科について、協議会としての判断ができました。研究員のみなさま本当にありがとうございました。  
次の議題（2）市町村教育委員会における採択報告及び情報公開について、事務局より説明願います。

事務局：まず、採択の報告について確認させていただきます。本日の協議結果を持ち帰り、各市町村教委において、8月5までに採択を行ってください。各市町村教育委員会における採択日と採択結果を、協議会事務局である諏訪市教委へ報告をお願いします。この件につきましては、7月3日付で各市町村教委事務局へ送付してある通知のとおりです。事務局が全市町村からの報告を受け採択事務の完了を確認できたら、その旨を各市町村教委に連絡します。その日以降、各市町村教委における採択の公表は各市町村の判断で行ってください。協議会、研究員会の開催経過、資料等、協議会としての公表は協議会事務局である諏訪市教委が一括して行います。前回までは議事録は作成していましたが、公開については、情報公開請求による個別の情報公開としていました。今回、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律の一部改正により、採択結果及び理由等を公表するよう努めることと定められました。事務局において協議会議事録を作成し、事務局ホームページ上において公表していくと考えています。なお、今後の静ひつな採択環境を確保するため、協議会長を除く採択研究協議会構成員及び調査研究員会研究員の名簿については公表せず、よつて、議事録においても発言者の氏名は記載しないこととします。各市町村教委の公表に際しては、協議会に関することは当番市である諏訪市で公表されている旨を表記または貴市町村の公表サ

イトにリンク設定をしていただく等のご対応をお願いします。最後に公表の時期ですが、議事録作成・確認の時間を考慮し、また県下の各採択地区の状況から9月1日を予定して準備を進めたいと考えております。ご協議のほどよろしくお願いします。

会長：いかがでしょうか。公表については、議事録も合わせて9月の最初に公表を予定したいというご提案です。ホームページでの公表という方向性もよろしいですか。(異議なし。)本日、誠実な議論ができたことに感謝申し上げます。市町村での採択については、ご承知の通り法改正により、地区ごとに同じ教科書を採択しなければならないと明示されておりますので、ご了解ください。再確認ですが、協議会としての協議結果は、国語・書写は光村、地理・歴史・公民は東書、地図は帝国、数学は啓林館、理科は東書、音楽・器楽は教芸、美術は日文、保健体育は学研、技術・家庭は東書、英語は三省堂です。それでは、最後に(3)その他として何かありますか。

事務局：(その他事務連絡。)

会長：以上で、議事を終了します。

## 5. 閉会(諏訪市教育総務課長)